
死後の夢

タイヨウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死後の夢

【Nコード】

N4317C

【作者名】

タイヨウ

【あらすじ】

突然現れた少女の突然の宣告。あなたは既に死んでいる。不幸な少年の死後を語った第一話。

第一話：俺って死んでた？

ああ眠い。

眠すぎる。

何故こんなに眠いんだ。

知ってる奴がいたら誰か教えてくれ。

夜更かした覚えは無い。

早起きした覚えも無い。

何か眠気が吹き飛ぶようなことは無
。

バシィィィン

平手が左の頬を捉えた。

眠気が吹き飛んだ。

眼鏡も吹き飛んだ。

痛え。

飛んでいった眼鏡を回収し、痛む頬をおさえつつ席に戻った俺は、飛んできた平手の主に理由を問いた。

「できれば殴った理由を教えて頂きたいのだが」

「殴ってない。叩いた」

「似たようなもんだ」

「眠そうな顔が癪に障ったから」

「……そうかい」

理不尽だ、そう思ったが口にはしなかった。

キンコーンカーンコーン

授業開始のチャイムが鳴った。

ここらで自己紹介を。俺は神原諒。中二。男。眼鏡。以上。

キンコンカーンコン

授業終了のチャイムが鳴った。

4限目という地獄を（寝て）突破した俺は、給食の準備を始める。準備が出来、食べ始める。

「でさー、月九のドラマは」

「だよねー、やっぱ」

どうでもいい女子のどうでもいい会話が耳に入る。どうでもいい会話だけ聞こえなくなる耳栓はないかな。ないな。

そんな時、友達のやはりどうでもいい一言。

「神崎いゝ。一発殴らして」

殴る動作を交えて聞いてくる。

「無理」

一応友達なので一応返しておく。

こいつは浜宮。小学校からの友人。

「まあ冗談はそこらに置いてだな、お前あいつと何話してたんだ？」

「あいつって？ああ、姫崎か。少なくともお前が期待してるような事じゃない」

「またまたゝ。神崎君ったらテレちゃって」

前方の女子が口を出し始めた。確か中村とか言ってたっけ。

「……」

「どーせさっきの痴話ゲンカだったんでしょ？」

いつから付き合ってることになったんだ。

さすがに腹が立った俺は言い返そうとし。

バシィィィィン

本日2発目のビンタ。さっきより威力が大きい気がする。

「妙な話をするんじゃない。」

この地獄耳め。というか、俺じゃない。コイツらだ。だが、言ったところでどうせ無駄なので言わない。

姫崎はビンタだけして自分の席に戻っていった。

「大丈夫か？」

「えっと……あの……お気の毒に」

浜宮だけは許さない。姫崎級のビンタを喰らわすまで許さない。結局、（若干一名を除く）同情ムードのまま給食の時間が終わった。

この後、いろいろあったがとりあえず6限まで切り抜けた。

今日のビンタ数・・・五

察してくれ。

そして帰宅。マイルームへ直行。ドアを開く・・・閉める。もつかい開く。さっきと変わらない光景がそこにあった。

何故か、姫崎が俺の部屋に居た。このやろう、ベッドの上に我が物顔で居座ってやがる。

というか、何故？そうか。こういう時は本人に聞くのが一番だな。「なんでお前がここにいるんだよ？」

「伝えるため」

「何をだ」

「真実を」

「はあ？散々人の事叩きやがって今更何を」

ボグオツ！！

今度はグーだ。

こめかみが……。

「黙って話を聞く」

「はい……」

立場弱いな、俺。

「まず、あなたは既に死んでいる」

「は……え？」

どうかのつば押し格闘家のようなことを言い出した。

「この世界は、あなたが見ている夢」

「夢といっても、入ってきている情報は現実と同じ」

「私の仕事は、あなたの目を覚まさせ、魂を導くこと」

急に死んでいるだとかこの世界は夢だとか言われて、理解出来るほうがおかしいと思う。

「導くって……どこへ？」

ゴッド・クラウド

「神の居所」

「ゴッド……なんだって？」

「本来は平手一発で目が覚める。でも……あなたは違った」

「またもや無視か……」

「仕方が無いので強行手段をとることに決まった」

「……」

「あなたを直接現実へ連行する。……との事だ」

「待てよ。俺の意思は」

「関係ない。行くぞ」

そこで俺の意識は途絶えた。

第一話：俺って死んでた？（後書き）

えと、タイヨウです。

まだ、学生ですんで、未熟なところもあるとは思いますが、なにとぞ宜しく願いいたします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4317c/>

死後の夢

2011年1月16日01時08分発行